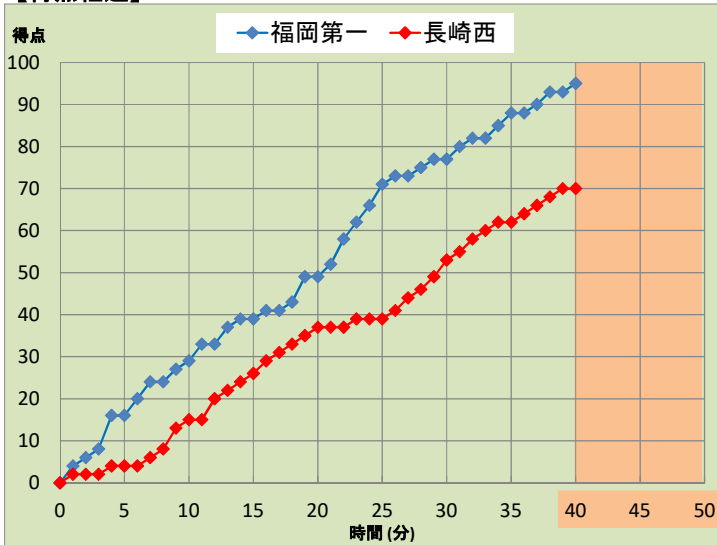


平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月24日 (土) 15:00	
コート	Aコート	第5試合
カテゴリー	男子	2回戦
主審	川島 司	
副審	川井 剛	

TEAM A		TEAM B
福岡第一	95	70 長崎西
福岡1位		長崎1位
○		●

29 1st 15  
 20 2nd 22  
 28 3rd 16  
 18 4th 17  
 OT

【BOXスコア】

TEAM A		福岡第一高等学校				
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
0	野口 竜生	2			2	
1	吉居 大誓	17	2	5	1	
8	河村 勇輝	0				
10	古橋 正義	9	1	3		2
16	平子 啓太	0				3
17	小野 絢喜	○ 5	1		2	1
24	松崎 裕樹	○ 15	1	6		1
28	井手 拓実	◎ 0				1
31	松本 礼太	○ 8		3	2	
46	小川 麻斗	4		2		1
50	ハムアンケイヨナサン	○ 20		8	4	
55	ディアライソフ	15		7	1	
コーチ	井手口 孝					
合計		95	5	34	12	9

TEAM B		長崎西高等学校				
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
4	井手 響己	◎ 2		1		2
5	岩本 大地	○ 5	1	1		4
6	里 俊祐	○ 2		1		
7	渡邊 滋生	○ 0				2
8	松田 誠矢	7	1	2		
9	内山大志	6		3		1
10	浅山 歩太	3	1			
11	宮川 雅己	○ 13	1	5		2
12	陣野 滉大	2		1		
13	本村 淳生	2		1		
14	山本 康瑛	22	2	8		
15	柴崎 雅也	6		3		3
コーチ	上野 陽一					
合計		70	6	26	0	14

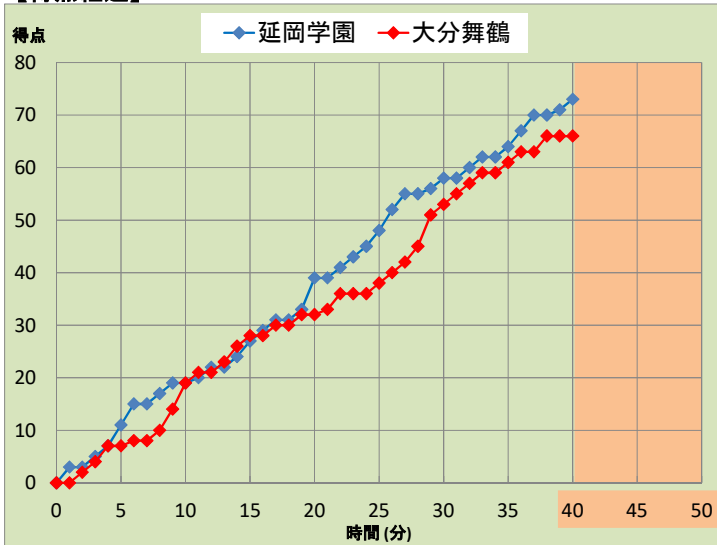
【戦評】

全九州大会2回戦、福岡県1位福岡第一対長崎県1位長崎西との対戦、福岡第一のスターティングメンバーは、#17、#24、#28、#31、#50。長崎西は、#4、#5、#6、#7、#11で試合開始。第1P開始早々福岡第一お家芸の速攻と高さを活かした攻撃でリードを広げる。対して長崎西は#4を起点として攻撃を組み立てる。5分経過し21-6と点差が広がり始めたため、長崎西はナンバープレーを駆使しシュートまでもっていかうとするが単発に終わる。第1P残り2分福岡第一オールメンバーチェンジ、長崎西はディフェンスをタイトにし、スティールからのブレイクで点数を重ね29-15で第1P終了。第2P長崎西の攻撃からスタート。長崎西は#11と#14のミドルシュートで加点していき、徐々に点差を縮めていく。さらに#5の3Pで勢いに乗り、残り3分で差を1ケタにする。しかし、福岡第一は得意のブレイクで追従を許さず、49-37で前半終了。第3P福岡第一は#50に意識をもっていかせ、#24#31が得点を重ねる。長崎西はオールコートマンツーマンプレスで流れを変えようと試みるが、福岡第一のスピードあるプレスオフェンスで流れを変えることができない。長崎西は#11#14の3Pなどをきっかけに差を詰めていきたいところだったが、前半同様単発で終わり、逆に福岡第一のスティール・ディフェンスリバウンドからブレイクを増やすことになってしまい、77-53福岡第一リードで第3P終了。第4Pの入りは福岡第一の#1のミドルシュート、長崎西の#11の多彩な1対1でお互いミスのない集中した場面が続く。長崎西は残り5分、メンバーチェンジで流れを変える。特にアウトサイド陣のドライブからのアシストやスティールからのレイアップで点数を重ね、少しずつ点差を縮めていく。最後は、1試合を通して速攻を継続した福岡第一が95-70で勝利を治め、試合終了。

【戦評記者】 貞包 謙  
福岡県バスケットボール協会

平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月24日 (土) 15:00	
コート	Bコート	第5試合
カテゴリー	男子	2回戦
主審	石嶺 良方	
副審	西崎 拓哉	

TEAM A		TEAM B															
延岡学園 73	<table border="0"> <tr><td>19</td><td>1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>19</td><td>3rd</td><td>21</td></tr> <tr><td>15</td><td>4th</td><td>13</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	19	1st	19	20	2nd	13	19	3rd	21	15	4th	13		OT		66 大分舞鶴
19	1st	19															
20	2nd	13															
19	3rd	21															
15	4th	13															
	OT																
宮崎2位		大分1位															
○		●															

【BOXスコア】

TEAM A		延岡学園高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	平尾 剣 弥	10	2	2			
5	田上 航 己	2		1		1	
6	森下 舜 真	3		1	1	2	
7	松井 雄 幸	10		4	2	2	
8	近藤 央	8	2	1		1	
9	八崎 健之介	0					
10	吉田 韻 希	0					
11	米澤 協 平	10	1	2	3	1	
12	軸屋 怜 音	0				2	
13	山本 将 史	9	1	3		1	
14	千々岩 修 大	0					
15	A KABAMGU FRA	21		9	3	2	
コーチ	川添 裕 司						
合計		73	6	23	9	12	

TEAM B		大分舞鶴高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	永松 知 也	0					
5	小野 駿 斗	0				1	
6	久原 大 弥	20	3	4	3	2	
7	泥谷 椋 平	3		1	1	2	
8	小畑 莉 大	2		1		2	
9	加藤 大 智	4		2			
10	蠣原 弘太郎	15	1	5	2	2	
11	山崎 蒔 志	18		6	6	2	
12	川井 健 太	4		2		4	
13	檜原 怜	0				1	
14	鈴木 順 登	0					
15	池田 優	0					
コーチ	齋藤 哲 也						
合計		66	4	21	12	16	

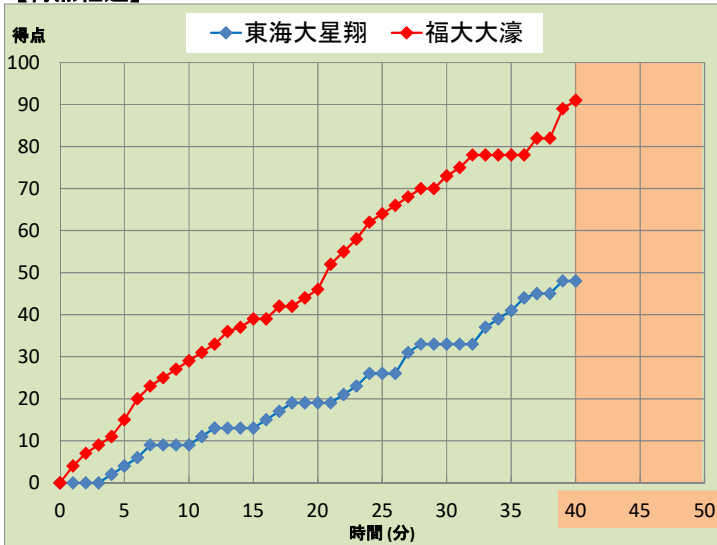
【戦評】

全九州大会2回戦、宮崎県2位延岡学園対大分県1位大分舞鶴との対戦、延岡学園のスターティングメンバーは、#4、8、11、12、15、大分舞鶴のスターティングメンバーは、#6、7、10、11、12。第1P、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。序盤はゆっくりとした静かな立ち上がりだったが、延岡学園が#15のインサイドを中心に得点を重ねる。大分舞鶴もターンオーバーからの#12の速攻などで得点。終了1.2秒前に#11のカットインからのレイアップがバスケットボールカウントとなり、19対19の同点で第1P終了。第2P、両チームともフリースローによる得点からスタート。ペリメーターからのシュートがリングに嫌われる中、大分舞鶴#10のドライブが延岡学園#15のファウルを誘いバスケットボールカウント。延岡学園も#8が3ptsを沈め、主導権をどちらも奪えない。残り1分、延岡学園はフリースローを確実に決め、#6がスティールからのレイアップを決めて、7点差で前半終了。第3P、延岡学園は#13の連続得点と、#4の3ptsでリードを広げる。大分舞鶴タイムアウト。その後も延岡学園#13が2pts、3ptsを決め、さらにリードを広げにかかるが、大分舞鶴は#6が2本連続で3ptsを沈め、さらに#10も3ptsを決める。広がりかけていた点差を5点差に縮めて第3P終了。第4P、大分舞鶴は#6のジャンプシュートからスタート、流れを掴みたいところ。延岡学園も要所で#11、#4の3ptsが決まり、リードを守る。延岡学園がハーフコートの2-1-2ゾーンディフェンスに変わってから、大分舞鶴は得点が#6の3ptsのみにしか取れず、リバウンドも確実に獲得した延岡学園が73対66で3回戦に進んだ。

【戦評記者】 三好 洋一郎  
福岡県バスケットボール協会

平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月24日 (土) 16:30	
コート	Aコート	第6試合
カテゴリー	男子	2回戦
主審	福岡 敏徳	
副審	千原 翔太	

TEAM A		TEAM B
東海大星翔	48	91 福大大濠
熊本2位		福岡2位
	9 1st 29 10 2nd 17 14 3rd 27 15 4th 18 OT	

【BOXスコア】

TEAM A		東海大星翔高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	松尾 侯雅	0				1	
5	江川 海	0					
6	石井 智大	17	2	5	1	1	
7	佐藤 拓亮	10		5		1	
8	趙 隆	3		1	1	2	
9	大林 良平	0				2	
10	井手口 京平	8	2	1			
11	黒木 佑樹	0				2	
12	中山 莉久	0					
13	藤本 翼	10		5		4	
14	田尻 啓太	0					
15	東 李成	0					
コーチ	本郷 宏						
合計		48	4	17	2	13	

TEAM B		福大大濠高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	永野 聖汰	9	3			2	
5	上塚 亮河	2		1		1	
6	川島 聖那	6		2	2	2	
7	浅井 修伍	4		2		1	
8	中崎 圭斗	11		5	1		
9	藤井 宏治	2		1		2	
10	山本草 大	3	1			1	
11	西田 公陽	5	1	1		1	
12	土家 大輝	2		1			
13	木林 優	2		1			
14	横地 聖真	24	2	8	2		
15	井上 宗一郎	21		8	5	2	
コーチ	片峯 聡太						
合計		91	7	30	10	12	

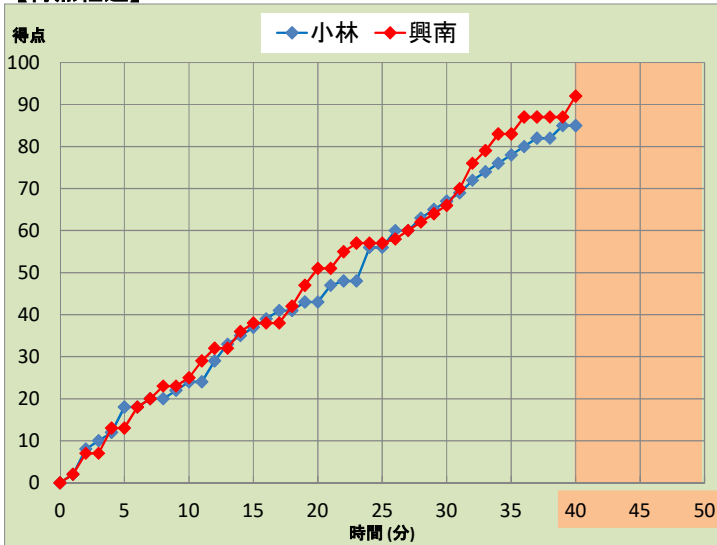
【戦評】

全九州大会2回戦、熊本県2位東海大星翔対福岡県2位福大大濠との対戦、東海大星翔のスターティングメンバーは、#4、#6、#7、#10、#13。福大大濠のスターティングメンバーは、#4、#8、#12、#14、#15で試合開始。第1P試合開始早々#14の3P#8のペイントでの得点で全国大会常連校の強さを見せつける。開始3分11-0となり、東海大星翔はたまたずタイムアウト。タイムアウト後#10がシュートを沈め落ち着きを取り戻す。福大大濠は#8と#15の連携プレーでゴール下のシュートで点差を広げ、第1P9-29福大大濠リードで終了。第2P福大大濠は#4を中心にパスが縦横無尽に回り、どこのポジションでも点数が取れるスペーシングを創っている。東海大星翔は#6が果敢にシュートまでいくが、リングを通過せず。#7#10がドライブからシュートを沈め、また#13がメンバーチェンジ直後に連続得点をし、何とかもちこたえたが、19-46福大大濠リードで前半を終了した。第3Pは福大大濠が開始から4連続得点で引き離しにかかる。東海大星翔もシュートまではいっているものの福大大濠の激しいディフェンスの前に攻めあぐね、ミスが続く状況を打開できず33-73で福大大濠リードで第3P終了。第4P福大大濠はメンバーチェンジを巧みに行ない、チームバランスを考えたベンチワーク、選手層の厚い総合力で東海大星翔を圧倒した。東海大星翔もメンバーチェンジをした選手が一線目を走ることで、チームとしてのリズムが生まれ、エースの#6、#7が最終ピリオドで力を発揮したが、前半についた点差が大きく響き、最終スコアは48-91で福大大濠が準決勝に進出した。

【戦評記者】 貞包 謙  
福岡県バスケットボール協会

平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月24日 (土) 15:00	
コート	Bコート	第6試合
カテゴリー	男子	2回戦
主審	松本 究	
副審	野田 宏樹	

TEAM A		TEAM B
小林	85	92 興南
宮崎1位		沖縄1位
●		○

24 1st 25  
19 2nd 26  
24 3rd 15  
18 4th 26  
OT

【BOXスコア】

TEAM A		小林高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	島元順平	9	1	3			
5	小川真興	27	4	7	1	2	
6	平山大成	13		5	3	3	
7	隈元治輝	11	1	4		5	
8	青山晃也	18		9		5	
9	河端晃大	0					
10	岡田城	0					
11	永田祐斗	0					
12	高瀬智生	0					
13	高橋勇斗	0					
14	緒方瑠偉	1			1	3	
15	手島諒喜	6		3		3	
コーチ	石川祐二						
合計		85	6	31	5	21	

TEAM B		興南高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	平良陽汰	29	3	6	8	4	
5	川満大我	21	1	8	2	1	
6	儀間雄山	20	4	3	2	1	
7	兼城賢斗	7	1	2		3	
8	アデバンジョウリアム	15		4	7	1	
9	安里宗弥	0					
10	中村大河	0					
11	糸数悠紀	0					
12	湧田琉也	0					
13	仲間史	0					
14	木下鈴之助	0					
15	山城康友	0					
コーチ	井上公男						
合計		92	9	23	19	10	

【戦評】

全九州大会2回戦、宮崎県2位小林対宮崎県1位興南との対戦、のスターティングメンバーは、小林#4、#5、#7、#8、#14、興南のスターティングメンバーは、#4、#5、#6、#7、#8で試合開始。第1P、両チームとも目を離せない一進一退の攻防で第1Pは競り合いが続く。興南25点、小林24点で第1P終了。第2Pも1点差のゲームでシーソーゲームは続く。小林の速攻が決まり、興南が3点リードされたところで2分51秒でタイムアウト。両チーム我慢の時間帯となるが、前半ラスト1分台になったところで興南のリバウンドや速攻でのファールのフリースローにより前半51対43で興南リードで終了。第3P、小林は、ルーズボールをよく取り、4点差まで詰めるが、興南の速攻も決まり、再び競り合い、5分で1点差となる。その後、小林はドライブにより逆転で1点差。攻防は続き3分で60対60に。興南#6のドライブで2点リード。その後、1点差の抜きつ抜かれつ手に汗握るゲームが続く、第3P終了。67対66で小林リード。第4Pの勝負となる。第4Pスタート、興南#7のスリーポイントで始まるが、小林がゴール下を入れ、興南#6もスリーポイントを決めるが小林もドライブを決める。5分を切ったところで5点差。小林がタイムアウト。残り2分を切り5点差で興南リード。小林残り1分20秒で2点差に詰める。興南#8フリースローをもらい3点差。残り31秒で小林のタイムアウト。その後、興南もタイムアウト残り24秒。その時点で3点興南リード。小林ファールゲームで興南がフリースローを2本決め5点差で小林のタイムアウト。残り21秒で小林ボール。最後までファールによるフリースローを興南#6が決め、92対85で残り10秒興南ボール。最後は、そのまま興南がリードを守り試合終了。

【戦評記者】 内田 二郎  
福岡県バスケットボール協会